

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700057
法人名	社会福祉法人 薫風会
事業所名	風の里 グループホーム
所在地	福岡県北九州市八幡西区里中二丁目17-13
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川1-7-6		
訪問調査日	平成26年1月14日	評価結果確定日	平成26年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年4月に法人内の人事異動があり、事業所開設以来初めての規模で人事異動がありました。グループホームという凝集性の高い環境で、人事異動による新しい風が、多様な影響をもたらしています。利用者の個別性を尊重し、その人らしく「納得」していただきながら、最期の瞬間まで生活していただくという理念に基づく援助方針に変わりはありません。それに加えて変化を恐れない「勇氣」の理念をどこまで実践できるか、職員一人一人の力量が試されるといふ経験をしています。その経験が必ず介護の質の向上につながると信じて、毎日利用者と共に生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人薫風会「風の里」として、開設7年目を迎えている当ホームと、3年目を迎える小規模多機能型事業所が隣接しており、日常的な交流や、災害対策、運営推進会議等を通じて連携を図っている。今年度は、開設来初めての法人内異動があり、入居者する方々のストレスとならないよう、最大限の配慮を行いながら、あらためて「納得・共存・勇氣」と掲げられている理念の具現化に取り組んでいるところである。入居者の言葉を大切に捉えた介護計画や、より効果的に実践に結びつけるためのケアプログラムの活用、また、職員個々の気づきを共有しながら、個別の暮らしの継続を支援している。入居者、家族、職員が、御互いに認め合い、支えあい、許しあえる関係作りの中で、管理者、職員は、日々研鑽を積みながら、何気ない日常を大切に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	対利用者の場面では、理念である「納得・共存・勇気」の実践が確実に実践できるようになったが、一方で職員の異動等により、異論や変化を受け入れる「勇気」を試される場面に遭遇している。	理念に関する資料が作成されており、その内容から、開設時の想いが伝わってくる。体制の変更に伴う異動も発生しており、前進する為の勇気と、これまで同様の入居者本位に基づくかわりの継続に向けた勇気を両立させるべく、管理者、職員は奮闘している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、ゴミ出しや散歩で挨拶をするなど、日常的な交流に加えて、毎年、地域の祭りの委員など積極的に参加したり、近隣保育所と行事の交流も行っている。	近隣に同法人の保育園が位置し、行事等を通じた交流の機会がある。町内会が廃止となっている為、日常的な交流は少ないが、特別なことだけでなく、日常的な挨拶等を通じて関わりを持っている。職場体験の受け入れ先として登録を行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの広報誌で認知症や健康に関する情報を発信するとともに、見学や相談に来られた方には、介護全般の疑問に答えられるよう丁寧な対応を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容や事故報告などを行い、改善策の実践状況を継続的に報告し意見聴取を行っている。また、雑談の中からもご家族の思いなどを聞きだせるようにしている。会議の内容は現場のミーティングなどで共有している。	運営推進会議は、小規模多機能と合同で、風の里多目的ホールで定期的に開催されている。利用者、家族、老人会会長、自治会長、知見者、地域包括支援センター職員の出席を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターから毎回の出席を頂き、グループホームのサービスだけでなく、様々なサービスの内容の説明やアドバイスを頂いている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得て、情報共有を図り、時にはアドバイスを受けながら、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が1名になった時点で防犯上玄関の施錠を行っているが、それ以外は施錠はしていない。拘束に関しても、スピーチロックや立ち上がりにくい椅子の利用状況などを、日々介護の現場で考えながらケアに取り組んでいる。	年間研修計画の中に位置付け、身体拘束に関する研修を実施している。言葉や対応による抑制についても、その都度振り返りや確認を行っている。日中、玄関の施錠は行っていない。入居時に、高齢者の特性にともなうリスクとその対応について説明を行い、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対して勉強会で自己チェック表を用いて、自身のケアの見直しを行い、虐待に相当する言葉や態度も細かく検討した。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には、後見人制度を活用されている方もおられ、担当スタッフを中心に制度の実践を体験できている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人の方との情報共有や意見交換を行っている。この過程を通じて、学ぶ場面も多い。必要時には支援が行える体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際はもちろん、改定の際にも十分な説明を行っている。その際に不安や疑問が発生した場合には、すぐに説明し、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護の場面や、運営推進会議の中でも、意見や要望について話し合い、職員にとって新たな発見や気づきになっている。キーパーソン以外のご家族に対しても、信頼関係を大切にしている。	運営推進会議や春と秋に開催されるホームパーティ、日常の面会時等を通じて、意見や要望の収集に努めている。職員は入居者の思いに寄り添い、気づきを大切にす様努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等で意見を出せる場を作っている。管理者は、職員とのコミュニケーションを重視し、職員の思いを表出できるよう努力している。	フロアミーティングや全体会議等を通じて、職員の意見や要望の収集に努めている。自己評価や個人面談を実施する中で、職員の想いや意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	冬季賞与から評価が支給額に反映せれる仕組みは出来たが、まだ、効果は確認できていない。人員不足という感覚が、実際より大きく職員に負担感として感じられており、意欲低下につながる兆しが否めない。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に関しては、性別・年齢等の基準は設けていない。働いている職員については、個々の特性や能力を把握し、生かせる仕事内容を任せるようにすることに加え、苦手なことにも積極的に関わられる場を設定し、克服できるように仕向けている。	職員の募集に関しては、性別、年齢などの制限は設けていない。資格取得に向けた勉強会実施や、外部研修参加時のサポートを行う等、個別のスキルアップを支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の実践が人権教育であり、介護の様々な場面で職員同士が考え、学ぶ時間となっている。	新規採用時には、理念をひもといいた資料をもとに浸透を図り、人権や認知症ケアに向けた方向性について共有認識を育んでいる。年間計画の中で、人権に関する研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅職員の占める割合が多くなり、職員の構成にバランスを欠き、人を育てる経験の場が不足しているため、リーダーシップの育成が遅れがちになっている。日々の現場での気付きが増え、実践に活かせるようにはなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の職員と交流を持てた。併設する多機能サービスとの交流も増やし、意見交換などが有効に行えるようにした。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言動や表情の変化、振る舞いなどから細かな情報収集を行うとともに、24時間シートも活用し、アセスメントのを充実させ、安心や安全の確立が行えるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や、初回のカンファレンスなどで、ご家族が本音を言える関係作りを目指し、不安や不満、要望を言いやすい雰囲気をつくっている。また、マイナスの評価をも関係性が深まった結果として、職員間で前向きに共有できるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お一人おひとりの今を見極め、今必要なサービスの提供を行っている。これから考えられる状態や状況を把握し、いつでも変更できる体制を作っているとご家族に説明している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者・利用者の方に壁を作らず、一方的に介護されているという感覚を抱かせないように心がけている。同じ空間で家族のように笑ったり、怒ったり、頼んだり、頼まれたりという関係性を大切に築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に細かく状態報告を行っている。衰弱や加齢による変化など、ご家族にとって辛い情報も共有しながら伝えるようにしている。そのような時間が不十分な場合は、毎月の手紙で細かく情報を伝え絆を大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室やかかりつけの主治医、信仰している宗教の関係者などとの関係を継続している。友人やご家族が面会に来られた時も、ゆっくり自室で過ごして頂けるようにしている。	これまでの馴染みの美容室の利用や、信仰の継続に向けて関係者の来訪を受けている。家族とも協力しながら、嗜好品の楽しみの継続等も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴や視覚障害・動きの不自由なご利用者に、ご利用者同士で助け合いの場面が見られ、職員もそのような関係性を支持出来るように、程よい介入を心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設の様子をお知らせしたり、行事のお誘いをしたりしている。そのことで新たな相談受付や支援が行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の話しなどからニーズや不安を引き出し、本人らしく生活できるよう実践している。また、言語的に意思の表出が、困難な場合にも行動パターンや表情、身体力の入れ具合など様々な情報を細やかに察知できるように心がけている。	センター方式も活用しながら、丁寧に情報収集を行っている。趣味や嗜好の面でも細かく記載されており、日々の生活の中に反映されている。日常の様子や何気ない一言、表情や仕草等から気づきを得ながら、思いや意向の把握と、暮らしへの反映に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報収集するとともに、ご本人との普段の会話の中から、生活歴を把握し、日常の支援につなげている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りの情報共有に努めている。前項にも共通するが、マンパワーの関係でコミュニケーションや寄り添いの時間が減少しているという、職員の実感をどのように前向きに変化させられるかを検討する必要がある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで現状・困難事例を話し合い、意見を出すことで、チームとして統一したケアを行うように心がけている。今後は異論の表出やそれを寛容に吟味する力をつけていけるようにしたい。	本人の言葉を大切に捉え、ケアカンファレンスにて本人本位にひもときながら、介護計画の中に表している。個別性、具体性に富んでおり、目標設定も具体的で共有しやすい。実践に結びつけるプログラムや記録がシステムに組み込まれており、毎月、評価を実施している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基にケアプログラムを立案し、気づきや問題点など、わかりやすいように記録に残す事で職員との共有にもなっている。毎月ケアプログラムの評価を入れることで、介護計画の見直しもスムーズに行えている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのようなニーズが出て、職員全員が、出来ないという反応をせず、どうしたら実現できるだろうかという姿勢を維持しているが、マンパワー不足に安易に帰結しないよう職員相互が理解・協力していく必要がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れの登録を行い、希望者を待っている状態である。また、外出や買い物希望の際、建物の車椅子仕様や障害者用のトイレを確認したり、どの店にどのような品揃えがあるかなどを細やかにリサーチし活用している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望でかかりつけ医を決めている。施設の嘱託医が先方の都合で、立て続けに交代した為、ご利用者・ご家族職員が安心できるように、新たな関係性構築の最中ではある。	本人、家族の希望によるかかりつけ医を尊重している。基本的には家族による受診となるが、状況に応じて柔軟に対応している。また、複数の医療機関との連携による訪問診療や、週1回の訪問看護等、日常の健康管理や適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約をし、週に1回来てもらっている。また、施設職員に准看護師が加わり、医療的な対応に専門性や柔軟性が持てるようになった。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にかかりつけ医より情報提供を行い、職員からも日常生活についての情報を提供するとともに、入院中も職員が面会に行くことで状態の把握に努めている。退院時は退院カンファレンスを行い、退院後の生活に安心していただくようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりカンファレンスの際にはターミナルの意向確認を行っている。運営推進会議の議題にも取り上げ、一人ひとりのご家族のターミナルケアに対する思いを引き出せるようにしていく予定である。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時より事業所としての方針の説明や意向の確認を行い、同意書を作成している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や方針の共有を図っている。医療機関で亡くなられた方がホームに帰り、職員がエンゼルケアを行った経緯もあり、大切な経験として職員は受け止めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設事業所との連携を強化した急変時のマニュアルに改善し、研修会でシミュレーションを繰り返すことで全職員が対応できるように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼・夜間想定総合避難訓練を実施。訓練参加にはマンションの住人や隣接の保育所の職員にも協力をお願いしている。	隣接する小規模多機能型事業所や近隣の保育園等、法人内の連携も活かしながら、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。マンションの1階部分に事業所が位置していることから、一般の住民の方々にも訓練を案内し、協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重しながら、個々に合わせた対応を行っている。限られた環境や人間関係により、お互いの相性も少なからず影響するが、それらを含めて人間同士の付き合いが多様でかつ、寛容に営まれるよう努力している。	個人の理解と尊重に努め、また、社会生活の継続を意識しながら、意思や感情の表出を大切に捉え、普通の暮らしを支援している。倫理や法令順守に関する研修実施や、理念の浸透を通じて、個人の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、ご本人の気持ち、考えがあつての行動になるように、選択肢を提供して支援を行い、選択肢を増やせる様努力をしている。また、意思の表出を待ち、職員本位の介護にならないよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のあらゆる場面でご利用者の希望屋のペースを尊重しているが、マンパワーの関係で以前より制約が出ていることも否めない。現状でこれらを改善できる方策を職員が協力しながら検討していく必要がある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴・起床時など、ご利用者の希望で服装を選択していただいている。職員が選択する場合もその人らしさがあり、季節感や組み合わせに違和感が出ないよう気をつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの嗜好や体調を勘案し、食事の時間を柔軟にしたり、食材を変えたりしている。食材の大きさや硬さ、見た目の工夫も行い、希望を聞きながら季節感も取り入れられるようにしている。職員と一緒に食事をする場面が制約されつつあるが、出来るだけ共に食事を楽しめるよう心がけている。	季節の食材を使い、入居者の好みを取り入れながら、職員が交代で調理をしている。個別のメニューの変更や、嗜好品の摂取等にも柔軟に対応している。法人理事長により管理されている近隣保育所の畑の収穫物が食卓を賑わせたり、年2回のホームパーティーには、家族も参加して食事を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の普段の食事量や体調を把握し、時間をずらしたり、間食を準備したりしている。水分量も過不足なく提供できるよう、飲み物の種類を工夫したり、チェック表で出納量を共有したりしている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいや、毎食後の歯磨きを徹底している。必要に応じて訪問歯科衛生士に口腔内の観察もしてもらい、口腔ケアに力を入れている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の排泄パターンの把握は行えているが、実際に誘導する職員の主体性や協働・連携の方法をさらに改善していく必要がある。	排泄パターンの把握に努め、個別の身体状況などに留意してスムーズな排泄に繋がる様に声掛けなどの支援している。また、便秘の予防に向けて、飲み物や食材の工夫、運動や腹部マッサージ等を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	開設時より導入している豆乳パンを現在も摂取してもらい、できる限り下剤の使用は控えている。その他、消化しやすい食材の工夫や、入浴時に腹部マッサージを行うなどの対応を心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	暫定的な予定はあるが、その時の希望や状態に合わせて変更している。入浴剤の使用やゆず風呂など季節感も楽しめるようにしたり、職員・利用者のコミュニケーションが充実できる場としても、活用している。	毎日入浴の準備はできている。本人の希望を優先し、対応している。浴室は広く、三方向からのアプローチが可能となっており、必要な箇所に手摺も瀧設置されている。入浴剤の使用や、柚子湯、菖蒲湯など、工夫をして入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の健康状態や睡眠状態を把握し、状況や希望に合わせて休息をとっていただいている。リビングで他者の気配を感じることの心地よさと、静かな自室で休息することを、ご利用者の希望に合わせ、さらにメリハリ良く提供できるよう工夫する必要がある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳でいつでも情報がわかるようにしている。服薬までに何度もチェックが入るよう、数名の職員がチェックをする体制を取ることで、誤薬には十分注意している。また薬の変更時は、医師や薬局と連携を深めるよう心がけている。服薬自立者の飲み忘れ防止に新たな課題がある。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の能力に合わせ、洗濯物たたみや台拭き、新聞たたみなどが無理なく継続できるようにしている。また、今までの楽しみに加え、ご家族にも体調管理と楽しみの優先度をご理解頂き、職員と共有することで、ビールや間食などの楽しみの機会が増えた。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の今の希望に合わせて、買い物や散歩にいつでも出られるようにしている。また、付き添いの職員の食事代に制限があり、外食できる店が限られることや、希望時に即対応できる機会が足りないことが課題である。	特別なことではなく、日常の中で散歩や買い物等に出掛け、また、近くの自動販売機にて飲み物を選ぶ等、気軽な外気浴や気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもと、ご自分でお金を所持し買い物を楽しんでいただいている方もおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望時に自由に電話を使用している。自分でかけることのできない利用者には、職員が代わってかけたり、伝言を伝えるなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングは自然とご利用者が集まる場所になっており、料理の音やにおい・談話やテレビの音なども心地よい環境となっている。壁には季節に合わせてた装飾をすることで、外気を感じることが少なくとも、季節を感じてもらえるよう努力をしている。	対面式のカウンターキッチンが設置されている食堂兼リビングは、共同生活の中心として馴染んでおり、暮らしの営みを感じられる居場所となっている。行事の際等には、隣接する多目的ホールの活用も可能である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自身で移動できるご利用者には、それぞれ居心地のよい居場所が確保できている。長時間の離床が体調や加齢で困難になっているご利用者の、その時々での居心地のいい場の確保は、今後の課題になっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ってきていただくことで、入居時の不安を少しでも軽減するようご家族にお願いしている。ご家族とも相談し、その人らしい志向のある居室となるように設えている。	障子の入った小窓が落ち着いた雰囲気を感じさせる。洗面台、一部ミニキッチン設備のある部屋もある。テーブルや椅子、テレビ、小物等、使い慣れた物や大切な品が持ち込まれ、韓流スターのグッズが飾られる等、個性豊かに、生活感あふれる部屋づくりがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者個々の「わかること」「できること」を把握し、待つ、見守るを重視している。また、ご家族に事故発生リスクも十分納得・理解いただいた上で、ご利用者の自発的な行動を極力妨げず、尊重するようにしている。		